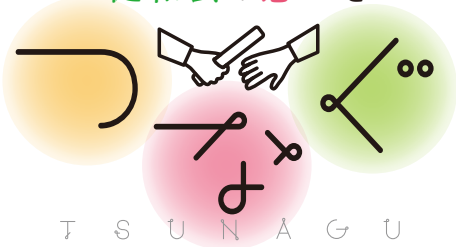


健和会の想いを



## 医療構想で掲げる

# 新病院がめざすもの



1984年の開院以来、強みとしてきた救急医療を柱としつつ、5 疾病 5 事業に対応できる急性期基幹病院として地域医療へ貢献します。災害拠点病院、地域医療支援病院など現在有する機能を堅持しつつ、北九州地域の医療機関をはじめとするあらゆる団体との連携をすすめ、超高齢社会を支える地域医療、福祉のネットワーク強化を目指します。

### 安全でより充実した医療の提供

危機管理、感染管理などの職員教育に継続して力を入れて取り組みます。災害等の発生時に向けた大規模訓練を定期的を実施し、災害拠点病院としての機能を高めていきます。チーム医療を重視し、多職種によるカンファレンスや栄養サポート、緩和ケアなどを実践していきます。



災害訓練

2019年の災害訓練では、小倉断層を震源とする震災を想定した訓練を行い、191名の職員が参加しました。新病院ではERとフロア続きで救急病棟を併設し、救急医療の質の向上を目指します。また、救急隊との情報共有をより綿密にするため、新病院でもワークステーションを救急フロアに設置いたします。

### 対応力の向上

地域の医療機関、介護事業所、行政、あらゆる団体との連携をすすめ、患者さん、地域の皆様の健康づくりに向けて、対応力の向上に努めます。



地域医療懇談会

近隣の医療機関や介護施設との連携を進めるために懇談会を定期的開催し、当院への要望をきき、意見交換を行っています。また、行政との協議を行い、住みよい街づくりの提案や、制度の改善要求を積極的に行っています。新病院では、従来以上に質の高い医療と、より密接な連携で地域の要求に応じていきます。

### 地域のセーフティーネット

貧困、経済的理由から受診抑制、健康悪化を招かないために無料低額診療を実施し、無差別平等の医療を展開しています。



手遅れ死亡事例報告会

毎年開催している事例運動交流集会では、無料低額診療を通して見える貧困問題や、制度のセーフティネットからこぼれてしまった例を挙げ、よりよい社会を作るための学習を行っています。全日本民医連が実施している手遅れ死亡事例の調査にも積極的に参加し、社会保障制度を改善する運動を進めています。

さらなる安心を



看護部 総師長 西 節代

新大手町病院竣工に向けて、新病院にかける意気込み・各部門の特徴を紹介します！

2020年はナイチンゲール生誕200年を迎える年となります。

今、看護を取り巻く環境の変化は激しく、と同時に看護職に対する期待も大きくなっています。地域包括ケアシステム推進の中、医療・ケア・生活の一体化が求められる看護の本質が問われる時代となっています。

大手町病院看護部は「その人らしさを支える心あたたかな看護」を理念に看護のこころを大切にしていきたいと思えます。新病院は地域の人々から信頼され、選ばれる病院となるよう職員一丸となって取り組みたいと思えます。今後ともご支援の程よろしくお願い致します。



# 事務管理職向け 新病院概要説明会



12月20日(金)、当院の事務管理職向けの新病院の概要説明を行いました。

谷口事務長による、新病院の医療構想や資金計画の説明、建設準備室から病院全体の平面図の説明を行う中で、職員からも多くの質問や提案が寄せられました。

新病院移転後にどのように部門間で連携して医療活動に取り組むか、各職場内のレイアウトや運用の見直しなど、ソフト面を一つひとつ決めていきます。新病院開設に向けて具体的に動き始めました。



# 新築移転後の 京都民医連中央病院を見学しました



12月14日(土)に、2019年の11月に新築移転を行った京都民医連中央病院の見学に、院長・事務長・総師長・副院長を含む8名で見学に行きました。

2021年11月に移転を控える当院にとって、実感やイメージが沸きとても参考になりました。

## 京都民医連中央病院には 以下のような特徴がありました

### ちいき総合 サポートセンター

病院の患者さんの相談窓口だけでなく、地域からの様々な相談場所として開放されていました。平日は毎日、人で溢れかえっているそうです。



### 医局

医局と事務室の間に図書室があり、それぞれ部屋の間には壁がなく、医師と他の職種でコミュニケーションがとりやすく一体感が高まる作りになっていました。



## 移転までの歩みとその想いに感銘

### History

## 道程から未来へ

地域の人々との協働でなくてはならない病院を。

京都が生んだ解放運動の指導者、山本善治が治安維持法に反対して殉教(1929年)されたことを機に、全国で無産者診療所が作られた。京都では、1931年左京区・田中では北北診療所、羅知山大病診療所が開院された。戦後の発展した貧困のなか、西陣の一隅から始まった。

黎明期 1950年～60年代	成長期 1970年代～90年代	発展期 2000年代～
<p><b>1950年代</b> 戦争と貧困の中から誕生</p> <p>1952 京都府立総合医療センター 1953 京都府立総合医療センター 1954 京都府立総合医療センター 1955 京都府立総合医療センター</p> <p><b>1960年代</b> 組織の成長 医療従事者の市内プロシエ</p> <p>1960 京都府立総合医療センター 1961 京都府立総合医療センター 1962 京都府立総合医療センター 1963 京都府立総合医療センター</p>	<p><b>1970年代</b> 京都府立総合医療センター病院計画</p> <p>1970 京都府立総合医療センター 1971 京都府立総合医療センター 1972 京都府立総合医療センター 1973 京都府立総合医療センター</p> <p><b>1980年代</b> 京都府立総合医療センター病院計画</p> <p>1980 京都府立総合医療センター 1981 京都府立総合医療センター 1982 京都府立総合医療センター 1983 京都府立総合医療センター</p> <p><b>1990年代</b> 京都府立総合医療センター病院計画</p> <p>1990 京都府立総合医療センター 1991 京都府立総合医療センター 1992 京都府立総合医療センター 1993 京都府立総合医療センター</p>	<p><b>2000年代</b> 京都府立総合医療センター病院計画</p> <p>2000 京都府立総合医療センター 2001 京都府立総合医療センター 2002 京都府立総合医療センター 2003 京都府立総合医療センター</p> <p><b>2010年代</b> 協働の輪を広げさらに前進</p> <p>2010 京都府立総合医療センター 2011 京都府立総合医療センター 2012 京都府立総合医療センター 2013 京都府立総合医療センター</p>

京都府立総合医療センター

京都民医連の誕生から新病院の移転までの歩みをまとめたパネルが院内に掲示されていました。「憲法」「無差別平等」「共同の営み」という民医連が大切にしているものが背景に表示されています。

病院を開設し増床して発展してきたことだけでなく、不当な圧力に屈しなかったことや、過去の過ちに対する反省も記されています。先人から受け取ったバトンを次の世代に渡す使命としての新病院建設だと感じられるものでした。